

平成30年4月12日

JA共済連と聖心女子大学が共同で寄附講座を開設

－ “農の可能性”をキーワードに、平成30年度から3年間、継続して開講 －

JA共済連（全国共済農業協同組合連合会・代表理事理事長 柳井 二三夫）と聖心女子大学（学長・岡崎 淑子）では、学生に対して農業の持つ可能性・地域社会とのつながり・役割などについて考える機会を提供するため、同大学の学生を対象に、平成30年度から3年間継続して寄附講座を開講します。

1. 本講座開講の意義（JA共済連）

本会では、平成24年度から『農業』をテーマとする寄附講座を早稲田大学において実施しています。同講座においては、『農』や『食』を軸に学んでおり、受講生がまとめた震災復興支援策が自治体に採用されたり、授業の取り組みが優良事例として政府の「食育白書」に取り上げられるなど、学生のフレッシュな視点と行動力に対し、各方面から高い評価を得ています。

この度、グローバル共生における『農』の可能性について研究をはじめられる聖心女子大学の学生に対して、わが国の農業の現状や課題などを学んでいただくとともに、JAグループの一員である本会が有する知識・技術、組織等を十分に活用していただきたいと考え、寄附講座を開設するに至りました。

本講座の開設を機に、同大学の学生ならではの視点から『農』と『食』、および『地域社会』について考える機会となることを期待しています。

2. 本講座開講の意義（聖心女子大学）

聖心女子大学では、「大学の理念」に基づき、グローバル共生を実践する人間を育成していくために必要な教育と研究、社会活動を推進するため、平成29年4月、聖心女子大学グローバル共生研究所を設置いたしました。

本講座は、聖心女子大学グローバル共生研究所が提供する科目群の1科目として開講いたします。グローバルに『農』の可能性を考え、その課題に関する学習や研究を通じて知性を磨き、机上の学習だけでなく実際に現地に赴き様々な交流を通じて活動することは、学生にとって非常に良い体験になると考えています。

3. 本年度の講座の概要

講座名： JA共済連寄附講座「農からの社会再生」

責任者： 加藤 基樹(聖心女子大学非常勤講師、早稲田大学大学総合研究センター准教授)

期間： 平成30年4月から平成30年9月

内容： 現代の日本社会が抱える都市部への人口集中、産業と雇用の減少、安心して住み続けられる生活環境や子育て環境の悪化などの社会の不安に対して、「農の治癒力」が、個人と社会を蘇生し再生する力になるという「農の可能性」を考える。

農の本来的特質は生命の再生産、協同性、創造性ですが、本講座によって、人々の労働、生き方やつながりを見直す契機となり、個人のレジリエンス(再起力)を高め、健康寿命を延ばし、既存の社会システム、とりわけ現代の食、子育て、人間関係のあり方を考察する。

授業では、各分野の専門家をゲストとして迎えることを予定しているほか、協同組合・共済事業の実現を説きJA共済の礎を築いた賀川豊彦に由来のある「賀川豊彦記念松沢資料館(世田谷区)」を訪問・見学、他大学との合同ディスカッションなども実施する予定。

以上